

永久保存版

名曲かえ歌大特集

P★A★R★T★5

●パーセル《トランペット・ヴォランタリー》 埼玉県・ニッカン我妻(Tu.)—以下3曲



はるがきた はるがきた

中学の卒業式では代々この曲を演奏していました。卒業=春ということらしい!?

●ムソルグスキー《禿山の一夜》



はげ やまの いちや

これはすごい。全く邪念が感じられない素直さだ。「てんらん会の～え、の～え」に通じる所がある。

●再び水戸黄門のテーマ



どんぐりころころ どんぶりこ おいけにはまって さあたいへん

●ブラームス《交響曲2番》4楽章 練馬・高橋大輔(Tp.)—以下4曲



やまのて せんしん おおくぼたかだの ばばめじろいけぶくろ

●ベルリオーズ《ラコッツィ行進曲》



タテ ホントイ トイダブナンサン アンコー バイマン だー ツモ レバスー アンコー だったのに

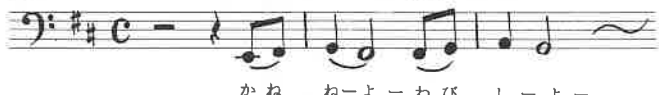
●ストラヴィンスキー《火の鳥》終曲



おう さだ はる なが しま しげ お

人の名前でリズムを把握するのはよくある。春の祭典の変拍子でも「タナカサン・イノウエサン・バカバカバカ…」なんて作ってしまった人も。

●チャイコフスキー《悲愴》冒頭



かね ねーよーわび しーよー

高橋氏はこの続きを4楽章まで書いてくれた。ちなみに2楽章は「酒早く飲みたいよー、飯早く食いたいよー」3楽章の最後は「ゲーっつぶれたっ」ここは本当にGの音だ。4楽章は「もう酒やーめたー、二日酔だよー」と始まっている。

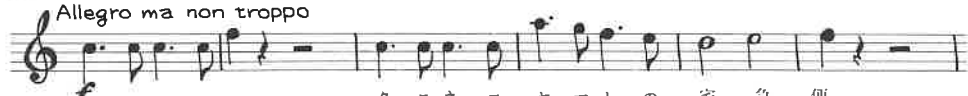
●ベートーヴェン《第九》4楽章



あー こりゃこりゃ

これは笑い事ではないぞ。「あーこりゃこりゃ」をやたらに強調する指揮者は多いようですよ。この後も「あ、どしたどした」とか、すごい。

●シューベルト《グレート》1楽章



Allegro ma non troppo

クロネコヤマトの宅急便

